第7回西和賀町議会予算審査特別委員会

令和6年3月13日（水）

午後 1時00分 開 議

委員長 出席委員数は全員です。会議は成立しております。

なお、高橋雅一議長は地方自治法105条の規定により出席しておりますので、申し添えます。

ただいまから予算審査特別委員会を開きます。

次に、内記町長並びに柿崎教育長より提出されております説明員は着席のとおりですので、氏名の呼称は省略いたします。

ここで皆さんに改めてお願いしておきます。審査の冒頭でも申し上げましたが、総括質疑にあっては複数の課、あるいは複数の会計に関する総括的な質疑を行いますので、ただ単に所管課の際に質問し忘れた、再度確認したいなどの理由による質問は、これを認めないことで全委員で確認しておりますので、念のため申し添えます。重ねて、総括質疑は経験則から一般質問のようになりやすいと感じておりますので、あくまでも次年度の予算審査である点を念頭に入れて質疑をお願いします。

会議に入る前に、各課の際に答弁保留となった事項に関し答弁を求められておりますので、これを許します。

順を追って課長から挙手をお願いします。

企画課長。

企画課長兼ふるさと振興課長 私からは、8日金曜日の企画課の予算審査におきまして、唐仁原委員からの質疑に対して答弁を保留しておりました事項について答弁をいたします。

抜粋の予算書8ページ、DTP入稿用ソフト使用料について、予算計上額15万6,000円に疑義があるとのこと質問でありましたので、改めて積算根拠等を確認したところ、まずライセンス

数は8日に答弁しているとおりの、1アカウントで間違いございません。ただし、予算書には広報DTP入稿用ソフトとのみ表記しておりますが、併せて広報PC用書体ソフトの使用料が含まれたものとなっております、このことからすればこの予算計上額は妥当な額であると判断しておりますが、執行に当たってはできるだけ安価に契約できるようにしたいと思っております。

委員長 唐仁原俊博君。

6番 ありがとうございます。できるだけ安価にということでしたけれども、必要な分は必要な分だと思います。フォントのライセンスということでしたけれども、読みやすいフォントであるとか、読んだときにどういう印象を抱くかというのも本当に左右される部分があるので、必要な予算は必要に応じて執行していただけたらと思います。

委員長 税務課長。

会計管理者兼税務課長 私からは、11日の国民健康保険特別会計予算審査の際、普本委員からの質問に対し答弁を保留しておりました事項についてお答えします。

国民健康保険特別会計抜粋版7ページの歳入、1款1項1目一般被保険者国民健康保険税の対象者の中で、子供均等割、未就学児の人数と金額、考え方についてお答えします。令和5年11月末現在での試算になりますが、国民健康保険加入者のうち未就学児は19人、参考までに対象世帯は12世帯となっております。

次に、金額でございますが、国民健康保険税は世帯の所得に応じた軽減制度がございますので、その軽減を考慮いたしますと13万8,375円

となります。

次に、考え方についてでございますが、昨年の6月議会の普本議員からの質問で答弁したとおり、国民健康保険制度の趣旨であります負担と給付の公平性から加入者全てに応分の負担を求める必要があるため、特定の年代に限定した減免は行わないと答弁したとおり、考え方は変わっているものではございません。

以上で終わります。

委員長 普本歌織君。

3番 では、確認ですが、その後財政調整基金からの繰入れであるとか、一般財源からの繰入れであるとかということ免除するという検討はなされなかったということよろしいですか。

委員長 税務課長。

会計管理者兼税務課長 先ほど答弁したとおり、国民健康保険制度の趣旨というものを先ほど説明しました負担と給付の公平性から加入者全てに応分の負担を求める必要があるため、限定した免除は行わない。その後検討していますかということなのですが、検討はしてございません。

委員長 質問者、よろしいですか。

(はいの声)

委員長 それでは、次に移行します、次の課に。

次に、各課の審査の際に行った答弁に対し、発言の訂正を求められておりますので、これを許します。

林業振興課長。

農業振興課長兼林業振興課長 昨日12日の林業振興課の審査の際、唐仁原委員からの質問に対し答弁した件につきまして、発言の一部を訂正させていただきます。

鳥獣被害に関する質問の中で、福島原発事故によるツキノワグマの肉のことにに関して、出荷流通制限が行われている区域でしたけれども、昨日お答えしたのは青森、岩手、宮城というふうにお答えをしましたが、正しくは岩手、宮城、福島の3県ということですので、おわびして訂正いたします。

以上でございます。

委員長 質問者、よろしいですか。

(はいの声)

委員長 それでは、直ちに日程に従って審査を進めます。

本日は、議案第27号から議案第34号までの総括質疑を行います。質問する際は、どの資料の何ページの部分か分かるように発言願います。

それでは、一括質疑を許します。質疑ありませんか。

高橋宏君。

8番 私からは2点、説明書の11ページ、主要施策の概要がありますけれども、その中の目標2、教育文化の分野の事業費にプールの管理費が3,318万2,000円ということで出ております。その下のほう、ずっとスポーツ施設、文化施設ということで予算が出ておりますけれども、その中でも高い維持費をかけているということなのですけれども、例えば文化創造施設、銀河ホールは大規模改修が終わって、今年30年ということもあってだと思っておりますけれども、様々な事業、今まで行った事業の復活とか、中学生が利用する等々、いろいろ今回の議会の中でも説明があつて、利用していく方向性が見えてきたと感じております。

その一方、プールに関しては、あまりそういう活用方法という案が出てこなかったという印象があります。学校の合併等々で、小学校、中学校、プールを将来的には使わないで、温水プール、年中使いますし、天候にかかわらず使えるという面での維持していくというのは理解しますけれども、維持費から見て学校のプールの維持費、4つなり5つなりに比べてもやはり高額ではないかなと。

以前プールについて質問したことがあったのですけれども、そのときにも合宿等、交流人口で利用するというような話がありました。しかしながら、今回同じ説明書の70ページに、観光商工課のほうなのですけれども、体験型観光の

推進事業ということで、合宿等で旅館を利用した場合の補助という予算があるのですけれども、前年度より30万の減額ということで、これは実績ということではなっているのでしょうかけれども、そのような使い方も長らく減額しているとなると、指定管理のほうでいろいろ事業を起しているという分もあるのですけれども、町として重点項目に挙げ、そして多額の維持費をかけているということであれば、もう少し町民に理解されるためにもどのような利用をしていくというような方向性を打ち出すべきだと思うのですけれども、その点について伺います。

委員長 生涯学習課長。

生涯学習課長 プールの維持管理費の部分ですけれども、今年度から第7期の指定管理に入っていくわけですけれども、まず指定管理委託料、前期、第6期から比べると非常に高額になっております。その理由なのですけれども、まず最近の電気料の上昇と、令和4年度から改定した温泉利用料の増額が影響したもので、この部分を除くと委託料の部分では若干の増加程度であり、受託者のほうから増やしてほしいとかいった、そういった部分の理由ではないというところになります。

温泉利用料なのですけれども、前回より3倍近い形になっておりますので、単年度でも300万ほど増えた状況にありますので、それを3年間となると、さらに大きい負担だなというところはありますけれども、施設の熱源として温泉施設の熱交換で使っている施設ですので、そういった部分が必要な部分だとは思っております。であったにしても、まず費用対効果や今後の躯体ですとか配管の更新なども踏まえた形で、今後の施設運営については考えていかなければならないと考えております。

プールの利用に関しては、受託者である水泳協会さんが主体となって自主事業ということで、以前より合宿パックといった形でも、あと大会の誘致なども先駆けて取り組んでいただいておりますし、最近では水泳には関係ないのですが、ふるさとブックオフといった事業などにも取り組んでいただいているところですので、プール施設の利用促進に取り組んでいただいているところですので、

今後ですけれども、ほかの課との連携という部分では、今自主事業として健康づくり、ヨガ教室などにも取り組んでいるのですけれども、そういった部分を健康福祉課の健康ポイント事業と連携できないかというような提案をいただいておりますので、そういった部分で関係課とも連携を取りながら、町民にも利用していただきながら、町外の方にも利用していただきながら施設を運営していければというふうに考えております。

委員長 高橋宏君。

8番 今担当課から健康づくりという話がありました。大変いいことだと思います。町民から直接町民にとって健康づくりに利用できるというような話がされれば、やはり維持管理に対する理解も広まるといいますか、出てくると思いますので、観光、また健康づくりという面での利用を促進していただきたいと思います。

もう一つ、同じ説明書の73ページ、川をいかけたまちづくり事業ということで、担当課から説明のときに詳しく伺いました。この中で、委託料としてやな場建設400万ということで、これはアユを捕るやな場を想定して設置するものだというふうな説明をいただきました。私もあまり魚のこと詳しくないので、町内の関係者からこういうものができるといって、いろいろお話を伺いました。すると、今和賀川にはアユはほとんどいないと。非常に減っていて、放流しても、いわゆるカワウに食べられてしまって、ほとんどいないという状況だというふうに聞きました。アユ自体は、和賀川のアユはいると、貴重なアユ、釣り仲間でも非常に評価の高いアユだということだったので、担当課としてアユの状態を調査した上での予算上程だったのか、その点について伺います。

委員長 ふるさと振興課長。

企画課長兼ふるさと振興課長 川をいかしたまちづくり事業で、令和6年度に計画しておりますやな場の整備に関して、ただいまの委員のご質問にお答えいたします。

やな場につきましては、アユを想定していたやな場でございます。それで、アユにつきましては、ただいま委員がご指摘いただいたカワウですか、カワウの存在というものを、私勉強不足で、今回初めて知りました。したがって、そういったことを想定してはおりませんでした。今後そういう被害の実態をよく調査いたしまして、もしそれが事実であれば有害鳥獣に該当するものと思われまますので、担当課と連携を図りながら対応してまいりたいと考えているところです。

委員長 高橋宏君。

8番 有害鳥獣の話が出たのですけれども、有害鳥獣ということで町のほうに駆除を要望しているというふうに町民からは聞きました。なかなかその駆除が進まないということだったので、担当課のほうではこの駆除についてはどのような対策を取っているのでしょうか。

委員長 林業振興課長。

農業振興課長兼林業振興課長 お答えいたします。

ツキノワグマですとかイノシシのような形で、カワウの部分での駆除というのを私直接聞いていなかったの、今初めてそういった話があるという部分をお伺いしましたけれども、ちょっと私も県内の状況を調べてみたのですけれども、カワウというのはどちらかというと沿岸のほうにたくさんいて、被害を及ぼしていたといった話があったのですけれども、最近では内陸のほうにも生息域が広がっているよと。一部錦秋湖畔、西和賀のほうにも広がってきているというお話はあったわけなのですけれども、ちょっとその実態に関して担当課としてしっかり把握できていない部分もありますので、これはその部

分、まず調査することが必要であろうというふうに思います。

それから、農作物被害と同様でございますけれども、第一義的には町民自ら、あるいは団体自らが対策をするということがまず必要だろうと思うのですけれども、これが人身被害ですとか、あるいは農作物被害ですとか、そういったものが拡大をしてくれば、当然これは対策を打たなければいけないだろうなというふうに思います。

いずれにしても、情報収集ですとか対応の方法については、まだ岩手県においても分からない部分がありますので、そういったものもしっかりと検証しながら進めていく必要があるというふうに考えております。

以上でございます。

委員長 高橋宏君。

8番 今担当課から人身被害という話があったのですけれども、カワウの人身被害というのは普通に考えて私はちょっと考えづらいなと思います。

この事業は、いずれ町としてもかなり今年が目玉の事業といいますか、町長の施政方針にも出ておりますし、かなり力を入れている部分の一つであろうと思います。その事業に関して、予算上程において担当課も、そして今有害駆除のほうでも全然分からなかったということなのですけれども、一事が万事とは言いませんけれども、私この前聞いて、町民に情報を得ました。そういうことは、こういう計画を立てる上ではそんなに情報収集として難しいことではないかなと思うのですけれども、かなり目玉の事業を上程するに当たっての基本的な調査とか考え方についてお伺いします。

委員長 ふるさと振興課長。

企画課長兼ふるさと振興課長 お答えいたします。

今回のやな場の計画に当たりましては、町内関係者、関係団体等と時間をかけて協議を行って、今回の計画に、予算計上に至っております

けれども、その協議の過程においてもカワウの情報というのは町のほうには寄せられておりませんでしたので、町のほうの調査不足と言われればそのとおりかもしれませんけれども、大変その点は申し訳ないと思っております。

委員長 高橋宏君。

8番 最初に申し上げましたように、アユ自体は非常に、和賀川のアユが貴重なアユということは言われておりました。有害駆除していただいて復活してもらおうというのは、非常に町民も期待しているところであります。この予算上程はやな場建設で上がっているのですけれども、状況を見ながら、やな場建設に向けた中でいろんな対策を取って、変更があり得るといいますか、見直しもしていきながら事業を進めていくというふうに理解していいのでしょうか。

委員長 町長。

町長 お答え申し上げます。

今のような状況につきましておわびしなければいけない点もあると思いますけれども、一方私がお聞きしている情報によりますと、確かにカワウによりましてかなり取られている実態はそのとおりということで、その原因としましては鵜が増えているということもありますし、先ほど海のほうに多いということでしたけれども、北上周辺においても河川工事、池の工事等によって営巣場所が変わってきているというような影響もあるようです。なおかつ河川、今いろいろ工事しております、見晴らしがよくなってきて、非常に捕まえやすい状況も発生していると。いろいろなことが重なっていて、こういう状況になっている点もあるようでございます。

また、アユに関しましては、今お話ありましたように和賀川のアユは、和賀川は藻が非常に質がいいので、餌がそういういい状態なので、非常においしいということで評判で、可能性はかなりあると思います。

また、私がお聞きした点によると、河川も長いものですから、場所によっては放流の仕方を

変えたり、やり方によっていろいろできるだろうというようなお話もいただいております。今のようなご指摘もいただきながら、できるだけ当初のそういう狙いに沿えるようにやりたいと思いますので、ご了解いただきたいと思います。

委員長 唐仁原俊博君。

6番 まず、地域おこし協力隊についてちょっと質問したいと思います。

予算説明書だと、最初12ページです。主要施策の概要の中に人・暮らしプロジェクトの円の中に地域おこし協力隊招聘事業として4,542万とかなりの額を占めています。来年度に関しては10名を超える募集があって、その関連を合計すればこのぐらいの額になるということですが、これまでふるさと振興課が主管課としてやってきたのが、来年度以降、企画財政課が主管という形に切り替わると思います。ただ、主管課で完結する事業ではないので、各課ごとの対応が必要だろうと思っています。

来年度に関しては、予算説明書の16ページに行きますと、地域おこし協力隊サポート業務委託料として200万、あるいはお試し地域おこし協力隊業務委託料100万などという形で、役場と協力隊の間で活動してもらう中間支援に団体に入ってもらう予定になっていますけれども、私自身が地域おこし協力隊をやった経験からいっても、やっぱりもともと、当初予定していた活動内容とかから3年後、協力隊の任期が終わって独立してやっていくのか、就職するのか、いろいろと出口はあると思いますけれども、当初の計画と違うことをやったほうが筋がよさそうとか、全然違う部分を町のほうで担当してもらいたいというふうなことというのがどうしても出てくると思うのです。せっかく募集に対して応募があって町に来てもらったけれども、活動の内容がどうもうまく調整できなくて、任期途中で終わってしまったとか、あるいは3年の任期が終わった後に、ちょっと町でやっていけそうにないから外に出ていってしまうとなる

と非常にもったいないと思っています。ですので、改めて募集されている各課でその辺り柔軟に対応していく予定かどうかというのをまず伺いたいと思います。主管課からでもいいですし、各課ごとに言っていただいてもいいです。

委員長 ふるさと振興課長。

企画課長兼ふるさと振興課長 地域おこし協力隊全体を統括している立場から答弁申し上げますけれども、まず町として地域おこし協力隊員の募集を行っているわけですが、最低限の各分野ごとのそれぞれの雇用条件等ございますので、そういった部分では当然統一した考え方でやっていかなければならないと思います。ただ、あとは分野ごとにそれぞれの担当課で募集を行って選考等をしていく、それから採用後もサポートにつきましてもそれぞれ担当課で対応していただいております。これ現状でございます。

令和6年度以降につきましても、基本的にはこのスタイルは変わらないものと思っておりますので、全体としては統一して制度を運用していきますけれども、実態はそれぞれ担当課の創意と工夫に委ねる部分がございますので、あとはそれぞれ担当課のほうからその辺りを答弁してもらいたいと思います。

委員長 観光商工課長。

観光商工課長 それでは、地域おこし協力隊を募集する課の一つとして観光商工課です。観光商工課では、令和4年、5年とでしたけれども、2名の募集をしてきて、募集、応募された方がおらず、まず6年目も引き続きということになります。

考え方といたしましては、まず担当課のほうでしっかりとどういう方を採用したいか、どういう活動をしてほしいかということの話し合いを進めながら募集要項をつくるということになりますし、あとこれまでの反省といたしましては、募集段階においてじっくりと応募される方と話をしてこなかったという経緯があったというふ

うに思っています。あくまでも募集したものに對して応募していただくということからすれば、例えば観光商工課では、まずは町との雇用関係を持ちながら活動してもらおうという部分について応募してもらう形になります。ただ、それが来ていただいて、やってみたらその活動内容がちょっとそぐわなかったとか思ったのと違ったというようなことが、やっぱり途中で違う方向に動きたいといったような思いにつながるものというふうに捉えています。ですので、あくまでも前段階でじっくりと募集要項について応募される方と話をした上で、まず応募していただきたいというのが観光商工課の考え方でございます。ですので、まずお試しというような部分もこれまでなかったと思いますが、そういう部分についても取組を6年度は始めていくというものだというふうに理解しております。

以上です。

委員長 健康福祉課長。

健康福祉課長 それでは、健康福祉課のほうでは今年度から初めての取組ということで、介護分野ということで介護の担い手として活動して、まず各種研修を3年間で受けていただき、3年後に介護福祉士としての資格取得を目指す協力隊を募集しております。まず、3年後、協力隊としての活動終了後も勤務先、今考えているのは介護施設なのですけれども、介護施設での雇用のほうを想定しているというところまで目指して募集要項を作成して、現在募集しているところになります。

委員長 農業振興課長。

農業振興課長兼林業振興課長 農業振興課の部分についてお答えをしたいというふうに思います。

まず、現在ということでございますけれども、当課所属の地域おこし協力隊、2名おります。活動の内容として、地元で取れた野菜を自分の店を使って提供するというのを目指すとともにですけれども、町内産の狩猟肉、いわゆるジビエというもの、この活用を目指して調査、研

修を行っている方が1名います。それから、野菜生産、農家として自分の農地を確保した上で、生産、加工、販売ということを通じて自立を目指すといったことと併せて、半農半Xの観点から冬期は除雪をしているということで、いわゆる西和賀型の農業スタイルを確立したいということで取り組んでいるものというふうになっております。

現在、令和6年度なのですけれども、リンドウの魅力を感じて、様々な媒体で情報発信、あるいは農業体験イベントを企画する方といった方を今募集しているといったことでございます。

それで、現状なのですけれども、本人の希望とこちらの望むものが乖離しないようにということもありますけれども、現在なのですけれども、毎月ミーティングで活動の状況を確認しているということでございます。そこで、隊員からいろいろ相談を受けながら、連絡調整というものを密にしながら進めているといった状況でございます。やはり募集をする際に、乖離という話がありましたけれども、大事なことは募集をする際に曖昧な募集というのはいけないのではないかなというふうに思います。こちらとして何を望んでいるかということをおたくきっちりはっきり伝えて、そしてそれが納得できますよといった部分で初めて地域おこし協力隊に手を挙げるといふふうに思いますので、そういった部分に関しては今後しっかり話、こちらとしても意識してやっていかなければいけないと思いますし、またフォローの仕方に関しても工夫をしていかないといけないのではないかなと。そういった部分でも、こちらとしても考えるべき課題点はたくさんあるだろうなというふうに考えております。

以上でございます。

委員長 建設課長。

建設課長兼上下水道課長 それでは、建設課からも回答させていただきたいと思います。

建設課におきましては、除雪作業員の高齢化や応募者数の減少に伴って、新たな情報発信の中で町外に向けても除雪に対する認知を上げていこうといった活動をしているところでございますが、それに伴いまして令和6年度初めて地域おこし協力隊の予算化をさせていただいたところでございます。

そういった意味からすると、まず今後のことということになるかとは思いますが、今年の3月まで私、観光商工課長をやっておりましたので、そういった中では地域おこし協力隊の方々とは非常に面談なりお話をさせていただいたところでございます。やはり重要なのは、まず雇用、採用になる前のファーストステップでのしっかりした協議、打合せが大切で、その方が望んでいるものと町が求めているものをしっかりマッチングさせていただかなければ、決して3年間という長い期間は継続していけないだろうというふうに考えておりますし、また中間フォローアップをしっかりやっていくというのが大切で、常に話し合いは続けてきた記憶がございます。そういった中で、その方が望んでいることとやはり町が求めているものをしっかりマッチングさせていただくことが大切だろうと。最終的には3年後の活動についても、その中で早めに相談をしていきながら進めていかなければいけないものだろうというふうに考えております。

ただ、どうしても3年間の中で職种的な考え方等々によって違うものというような望みがあるような場合にあれば、各所管課では当然所管している業務しかございませんので、それ以外の部分については招聘所管課、もしくは総務課等、人事も含めてですけれども、そういった中での協議が必要だろうというふうに考えております。建設課においては、除雪作業についての基本的な募集になりますので、冬期間だけになりますので、夏季期間につきましてはそれこそ半除雪で半Xの中でどういうふうに考えていく

かというあたりを話し合っていくべきなのだろうなというふうに考えているところでございます。

以上です。

委員長 唐仁原俊博君。

6番 ありがとうございます。来年度に向けて初めて募集される課もありますし、これまでと違うメニューを用意している課もあります。いろいろと勤務形態とか背負っているミッション等々、協力隊員によってかなり今回バラエティー豊かになるかなと思うのですが、協力隊の中でのつながり、町で活動する人たち同士のつながりというのもやっぱり重要になってくるかと思えます。なので、先ほど農業振興課長から答弁がありましたけれども、課の中でミーティングをしているということもありましたが、課の中でのミーティングだけではなくて、地域おこし協力隊のミーティングとかも設定されていくべきかなというふうに感じています。今のところは、そういう課横断でのミーティング、町で働いている人の協力隊のミーティングみたいなことというのは想定されていますでしょうか。

委員長 ふるさと振興課長。

企画課長兼ふるさと振興課長 お答えいたします。

当然担当課同士の横の連携というものは、適宜図っているところでございます。地域おこし協力隊員同士の連携ということは、公式にはふるさと振興課としてその場をセッティングしたことはあったかもしれませんが、定例化しているわけではございません。今後につきましては、令和6年度に予定しておりますサポート業務委託も含めまして、そういった今委員からご提案あったような隊員同士の連携が図られるような取組はぜひ検討していきたいと考えているところです。

委員長 唐仁原俊博君。

6番 ありがとうございます。外から町にやってくる人にとっては、同期みたいな存在が非常

に心強いものだろうと思っています。町内の企業でも、複数人新たに採用できる場所というのは恐らくほぼなくて、新人が1人という状況が多いと思うのですが、その中で年の近い相談できる人がいないとかという話はよく聞きました。協力隊の場合は、年齢に関してはかなりバラエティー豊かになると思うのですが、同期として、もちろん人同士のことなので、気が合う人、気が合わない人はいると思うのですが、町の状況をよくするとか、あるいは地域おこし協力隊の受入れ態勢をより整えるという意味でも定期的にミーティングを開催されることを検討していただきたいなと思います。

繰り返しになりますけれども、新しく募集をかけた課もあります。その中でいろいろと食い違いとかというのは、どうしても事前に協議を重ねたとしても出てくるものだと思いますが、そのときに会計年度任用職員とかという点で言えば町の職員を採用するという点に変わりはないのですが、町の外からそういう人を連れてくるという意義に鑑みて、いろいろと柔軟な対応を求めたいなというふうに思っていました。今日のお話を聞く限りは、各課とも恐らくそういう対応をしていただけるだろうなというふうに感じました。ありがとうございます。

委員長 高橋敏樹君。

5番 私から企画課9ページのJR北上線利用促進についてと、学務課の抜粋13ページ、西和賀高校魅力化支援事業についてお伺いしたいと思います。

西和賀高校の今年度の入学希望者が定員を上回り、倍率が1.23倍になったということは昨日お話ししましたが、これは来年度以降の2学級校の復活を目指す、またとない、いい機会となっているのではないかとこのように思っております。もしも2学級校の復活が実現すれば、将来的に交流人口の拡大、その先には定住人口の拡大、そして北上線利用者の拡大へと確

実につながるものだというふうに考えております。現在も2学級を目指して取り組み中のこととは思いますけれども、町内中学生、県内外の中学生への取組、また県教育委員会への働きかけ、そしてその後の受入れ態勢の充実について、今年度限られた予算の中ではあると思いますけれども、どういったことを考えているか伺いたいと思いますし、また2学級復活は北上線の利用拡大に大きく影響すると思っております。これについて、JR北上線の利用促進に向けて予算化はされていないと思いますけれども、そこについて考えがあればお伺いしたいと思っております。

委員長 教育長。

教育長 まずもって今日、実は中学生、卒業式がありましたので、それに参加いただきまして本当にありがとうございました。子供たちも地域の方々がたくさん見ていただきまして、いい門出を送れたのかなと思っておりました。本当に感謝申し上げます。

続きまして、明日発表になる西和賀高校のことについてになりますけれども、今委員さんのほうから2学級増ということも視野に入れてどうなっているのだろうかということでご質問いただきました。その前にですが、まず40名定員に今年度49人、推薦者も含めるとそれぐらいの募集があったということで、今までの町と学校が協力していった取組につきましては、町にとっては産業とか、そういう経済的な面を確保するのはもちろんなのですが、住んでもらうためには医療、福祉だとか、道路交通網だとか、そして学びの場があるということがやはり大事なことだということで、なくしてはいけないということで取り組んでいただいて、現在まで続いているというふうに認識しております。

我々教育委員会としてもたくさんの使命がありますが、大事な使命の一つとして毎年毎年力を入れて取り組ませていただいているところで、その結果として、今年度は高校さんとよく

連携を図りまして、高校と何回も話し合うことから、西和賀高校というのは一体どういう高校なのだというところでいろいろと話し合った結果、様々なコンセプトが生まれてきて、それをPRしたおかげで、まず今回に至っていると。

あわせてですが、県教委と高校のほうでもやはり高校改革ということで様々変化がありまして、県教委が高校に要求しているものがありまして、スクールポリシーの作成ということがありまして、どんな生徒を募集したいのだと、それからそこではどんな学びがあるのだと、卒業時にはどこまで育てたいのだというような3つのポリシーを作成することになっておりまして、西和賀高校はどんな生徒ということにつきましては、学習に意欲があることとか、それからみんなと協働して学ぶことができること、それから未来に対して豊かな創造性があることということで、そういう可能性がある子供たちを合格させたいということで話をしてきました。我々もそれに合わせて、町外や県外に向けて情報を発信してきたところです。

そこで、今回このように定員が40人に対してそのような49という志願者があったものですから、我々としては、ここは是が非でも高校と県教委が協定を結んでいるはずである入学するアドミッション、アドミッション・ポリシーに関わって、高校が志願者を見たときに、それに沿ってあるのであれば、対応できる生徒であれば定員に関わりなく受け入れてほしいということを実は県教委にもお話ししてきたところですし、併せて県教委と、それから市町村の教育長全員集まったときの懇談会があったのですが、その場でも話しさせていただきました。あわせて、あとは県のいろんな判断するトップのほうにも足を運ばせていただきまして、何回か、発表になってからでも、また予測できた段階で何とかしてほしいということで進めております。結果的にはどうなるかは、ちょっとこれは回答いただくものではありませんでしたので、どうなる

か分かりませんが、いずれ町の活性化のためには本当に、繰り返しになりますが、使命としてやらせていただいておりますので、ここは皆さんの今後の協力も是が非でもいただきたいなというふうに思っています。

そこで、もしこれが2学級であれば、本当に、先ほど高校、今の現状で言えば2学級というと80人になります。そうすると、現状から言えば毎回懇願しなくても、学校の本当の判断の下で集まってきた子供たちと学校がお互いに面談をしたりなんかしながら決定していく、入学者が決定できますので、その面につきましてはやはり今後2学級に関わっては運動していきたいなというふうに思っているところです。それに合わせては、受入れ態勢としての寮の確保だとか、いろんな学びの支援だとか、これはありますので、これにつきましては皆さんと話し合っ、どこまでできるかということをご理解いただきながら行わせていただきたいというふうに強く思っているところです。

よって、いろんな形では、現在結果には結びつくか分かりませんが、取り組んでいる最中だということをご理解いただきたいと思っておりますし、昨日もお話しさせていただきましたけれども、町民のご理解もいただきたいと。先ほどの地域おこし協力隊ではないのですが、外から来たときにウエルカムの温かい環境を整えておくことが、やはり来た方々が安心して、またいい町だよと発信できる一つの要素だと思いますので、是が非でもご協力お願いしたいなというところでした。ちょっと答えになったかどうか、足りないところがあれば、また後ほどお答えいたします。

委員長 企画課長。

企画課長兼ふるさと振興課長 JR北上線の利用促進を担当している立場として、ただいまの委員のご質問に答弁させていただきます。

まず、委員もご承知のとおり、現在西和賀高校の生徒数、半数以上がJR北上線を利用して

通学しております。仮に2学級校になるようであれば、この割合はもっともっと増えてくるものと想定しております。必然的にJR北上線の利用者が増加するというので、これは大変喜ばしいことだというふうに思っております。西和賀高校の存続とJR北上線の存続というのは、これはどちらも町の、自治体として、西和賀町、自治体の維持、発展のためには欠くことのできない条件だと思っております。そして、西和賀高校の生徒が増えるとJR北上線の利用者が増える、JR北上線がなければ西和賀高校の存続も難しいわけですので、この2者はお互い持ちつ持たれつといいますか、いい意味で相乗効果が期待できる要素だと思っております。

したがって、繰り返しになりますが、西和賀高校とJR北上線というのは西和賀町にとって西和賀の地域経営上極めて重要な要素だと思っておりますので、ただいま答弁申し上げているとお互い相乗効果が発揮されるよう、これからも鋭意取り組んでいきたいと思っております。

委員長 高橋敏樹君。

5番 ありがとうございます。大変熱の籠もった答弁をいただきました。我々も今まで以上に真剣にいろんな各所で協力しながら進めていきたいなと改めて思ったところでございます。

最後に伺いますか、お二方の答弁と併せて町長からも一言お伺いしたいというふうに思います。

委員長 町長。

町長 お答えさせていただきます。

今教育長、課長から答弁させていただきましたように、西和賀町にとりましては今後の地域づくりにおいて、どちらも非常に貢献していただける分野であるというふうに捉えております。ましてJR北上線、西和賀高校、今お話しのような関係でございます。そういう点で、最大限の力を入れて頑張りたいなというふうに思っております。

あわせて、より西和賀高校と町との、先ほど教育長さん話をして、政策ブランド化といいですか、そういうのを深めているという話でしたけれども、それをさらに深めて、それが将来の町の人材育成と、あるいは町を担っていただけの人になっていただくというようなことにまでも及ぶような形で取組を深化させていければいいなというふうに現在考えているところがございますので、引き続きご理解とご支援のほうをよろしくお願ひしたいと思います。

委員長 ほかに質疑予定されている方はございますか。

(はいの声)

委員長 それでは、ここで午後2時10分まで休憩します。

午後 1時57分 休 憩

午後 2時10分 再 開

委員長 休憩を解き審査を進めます。

ここで皆さんにお願ひしておきます。質問に当たっては、簡潔にお願ひします。

それでは、質疑を許します。

普本歌織君。

3番 私からは、男女共同参画のことについてお伺ひしたいと思います。

予算説明書12ページの重点プロジェクトのところなのですが、令和4年度まで女性が住みやすいまちづくりプロジェクトというのが入っていたと思うのですが、令和5年度、後期計画に入る時点ではなくなっています。その考え方をまず1つお聞きしたいです。

それと、これがなくなると重点プロジェクトのところにも男女共同参画ですとかジェンダー平等を推進するような文言がまるでなくなってしまっているというところで、各課で予算を取って進めることも考えられるような視点だと思うのですが、その考え方をお伺ひしたいと思います。

委員長 暫時休憩します。

午後 2時13分 休 憩

午後 2時23分 再 開

委員長 休憩を解き審査を進めます。

生涯学習課長。

生涯学習課長 お待たせしました。女性が住みよいまちづくりプロジェクトが今回の予算書からなくなったということですが、女性が住みよいまちづくりの事業についてですけれども、前期の計画で別の重点プロジェクトとして5つ掲げられておりました。その際に、私が受けた女性が住みよいまちづくり推進監、6次産業推進監、健康づくり推進監の3人の推進監を設置して重点的にプロジェクトを進めるというような形で前期計画で計画されて、配置をされた、任命されたところです。

その際の私が任命された3年間でやった事業につきましては、まち・ひと・しごと創生総合戦略の第1次計画の中には女性が住みよいまちづくり推進が必要だというものがありました。それは、前の細井町長のときに、女性が元気なまちはすごく活気があっていいということで、平成16年度に女性だけのプロジェクトチームをつくりまして、若い女性が住みやすい事業というのはどんなことが考えられるのかということで、そのプロジェクトチームで提言をして、それが総合戦略に盛り込まれておりますし、前期の総合計画の中で進められてきております。

私が担った部分としては、若い女性が住みよいというところで一番課題となっていた子育て支援の部分が、今も学務課と健康福祉課でそれぞれ担当しているのですが、そのちょうど中間で、どっちにもつかない部分のところ、私がやったのは定住支援のガイドの作成しておりますし、移住者の声を載せた定住支援ガイドブックの発行をしております。そのほかに、あと湯本にできた若者単身者用の住宅の前段の部分、最初若い女性をターゲットとしていたものですので、そういった部分で役場職員の女性チームから住みやすい環境についてのリサーチなどを行ったというものになります。住みよいま

ちづくりの進める部分について、ある程度、一定程度の結果が出たということですし、後期の総合基本計画ではそれを除いた形の5つの新たなプロジェクトで組み立てられたのだと思っております。

以上です。

委員長 普本歌織君。

3番 では、女性が住みよいまちづくりは達成されたということで、大きなプロジェクトからは名前がなくなったというようなことでいいですか。という疑問などもあります。またこのことは別の機会に聞くことにしたいと思います。

この予算に関しては、各課で男女共同に関わっての予算を取って進めるようなことも考えられると思うのですが、その辺りの考え方を教えてください。

委員長 町長。

町長 答えいたします。

先ほどのプロジェクトからの話は、経過としましては生涯学習課長から説明させていただきましたけれども、私自身の認識としましては比較的大きい予算を伴って、ハード的な面も伴ってやる事業の代表としてくくったということで、前事業におきましては若者住宅がかなり大きいウエートを占める事業であったというふうに認識しております。それにつきましては、ご承知のように完成しておりますので、一定の区切りはついたというふうに思っております。

そのプロジェクトの経過、私なりに資料を見させていただきますと、女性のプロジェクトチームをつくって、女性専用の定住住宅が必要ではないかという発想で検討が進められたようです。ただし、その中で女性専用というのは好ましくないという声がむしろ女性の方々から出てきて、現在のような形になったというようなこととございます。そういうプロジェクトを立ち上げて、一つの区切りとして定住住宅、湯本の住宅ができて、区切りがついたということと思っております。

今回の計画につきましては、男女を超えてという方々も、ダイバーシティではないですけども、いろんな取組の中で多様性を重視した中でやっという考え方の下に人づくりということとくらせていただいております。ただ、住宅整備のような大きな事業費を伴うようなプロジェクトは今回考えておりませんので、重点プロジェクトというくくりの中には取り上げさせていただかなかったというようなこととございます。

繰り返しになりますけれども、男女共同化は計画もつくって、目標もつくっておりますけれども、それを基本としつつ、より性を越えた多様性という視点で今後は取りかかっているかなければいけないというふうなことを私自身としては考えておりますし、それをできるだけ反映させたような形で計画にさせていただいたというふうな状況というふうにご理解いただければというふうに思いますので、よろしく願います。

委員長 刈田敏君。

11番 観光のほうでちょっとお伺いしますけれども、観光振興についてです。その中でも今回予算の審議の中で温泉ということでいろいろ聞いてきたのですけれども、観光人口を増やすにはやっぱり温泉を盛り上げていくことが本当に大きな伸び代があるのではないかと思うのですけれども、令和6年、そういうところで温泉利用、そしてその中にはいろいろな事業があるのですけれども、横断的にやっていくこともありますし、民間のところもあると思いますし、観光に関してはやっぱり観光協会とのつながり等もあると思います。令和6年の目指す方向と、あとはそのすり合わせみたいのところもあるのか、その点お伺いします。

委員長 観光商工課長。

観光商工課長 答えいたします。

温泉ということで、温泉につきましては公共の温泉もあれば、民間の温泉もあるということ

でございます。まず、観光の面からいたしますと観光振興計画というものをつくりながら、令和4年度からまず8年度までの計画ですけれども、第1次アクションプランということで4年からまず6年までの計画ということで、第2次に向けて様々な調査分析等を行ってまいりました。その中で顧客満足度調査というものを四季に分けて行いまして、特にも春、夏、秋、冬とやりまして、一番多かったのが春、秋の季節に飲食店とか旅館でアンケート調査を実施して、まず1,000件を超えるくらいの回答がありました。その中でも温泉という部分というのがかなりキーワードで挙がっておりまして、観光の町ということで温泉もかなり西和賀町はウエートが大きいなというふうに捉えております。

そういうことからして、令和6年度につきましても温泉については、民間の旅館については引き続き利用促進を図るといような部分からも、そういうふうな補助事業の合宿の部分も引き続き行っていくという部分もありますし、あとは大々的にPR等を行っていくといようなことから、やっぱり時期に合わせた新聞ですとか雑誌等の広告も活用しながらPRを行っていくといようなところを行っております。

あと、やっぱりイベント関係もかなりありまして、観光のほうでやっているイベントというのは町への誘客、温泉旅館とか飲食店の利用促進といような意味がありますので、まず錦秋湖マラソンとか、あとは冬であれば雪合戦もありますし、雪あかりもでございます。そういう面からしても、より多くの方に宿泊してもらう、誘客といつか、来町してもらうといようなところを進めていくためにも、より多くの方に来ていただくための受入れ態勢の整備を進めていきたいというふうに考えているところです。そういう旅館とか飲食店を使っただけのために、来町していただくためには、町にとっても様々な観光のコンテンツみたいな部分が多数あることがいいというふうに捉えております。様々な

いろいろな課題もあるのでありますが、そういうふうなことで観光協会とは町も両輪といようなことで、月1回の定期的な会議を持ちながら、調査分析結果に基づいた、そういうふうな新たな観光コンテンツづくりといようなもの、あと磨き上げといようなところに今取り組んでいるところですし、これからもそういう部分を続けていきたいというふうに考えています。

以上です。

委員長 刈田敏君。

11番 まさにそのとおりで、アクションプランが終わって、今度第2次……アクションプランだっけか。ですね、第1次アクションプラン。先日、西和賀のリーフレットをもらいました。この中には、温泉がびっちりあるわけですね。すぐ読み応えもあるんですけども、中身が伴っているかということなわけです。そこを重点的に考えていかなければいけないのではないのですかということなわけですけれども、入湯税もやっぱりきちっと目標を持って、ある程度つながりをつけながら、上げるような大きな目標を持っていくことも必要だと思う、コロナも明けたことですね。明けたと言えどもちょっと語弊があるんですけども、そういうことを令和6年に何とかやって、全体を底上げするといような考え方でいかなければいけないと思いますけれども、その点をもう一回お聞きします。

委員長 観光商工課長。

観光商工課長 お答えいたします。

まず、委員の今おっしゃるとおりで、コロナ禍も明け、誘客数も大分戻ってきているという状況でございます。公共温泉についても入浴客といようなものも増えてきている状況であるといことから、やはりそういう点を考慮しながら、より多くの方に来町していただくように取り組んでまいりたいというふうに考えております。

以上です。

委員長 刈田敏君。

11番 あと、観光についてもう一点なのですけ

れども、昨日もいろいろ民俗資料館、それからあとは美術館等の、それも誘客を目指して、増やしていく考えだということでありました。その中であったのですけれども、個々に、深澤晟雄資料館というのをもう一個ちょっと入れて、町全体としての観光と、それから歴史というものをトータルした中で、町全体としての集客をする。

先ほどのリーフレットにもモデルコース等ありますが、そこをもう少しつなげていくためには本当に、これまでも話してきましたけれども、深澤晟雄資料館というのが観光の、ただそれだけでいいのかというあたりも踏まえながら考えていかななくてはならないと思いますので、何とか深澤晟雄資料館のありようというあたりも含めて、そこはやっぱり教育関係もあると思うので、そういう考えでいくことが必要だと思いますけれども、その点の認識をお願いします。

委員長 町長。

町長 お答えいたします。

体系的な施策の観光振興の取組につきましては、プランに沿いまして着実にやっていくというふうなことになると思います。一方、ただそれは要するに基盤整備といいますか、受入れ態勢の整備が専らという見方もされるとすれば、いかにして人を呼び込んでくるかという部分が重要になってくるかだと思います。そういう点では、やはり民間でやっていただいている部分、民間の方々、いかに力を発揮していただけるような形にするか。一方、第三セクターも通じての公共的にやっている部分の施設、今の状況でいいのかという部分を併せて考えていかなければならないと思います。

そこで、私自身としましては、まだプラン等に樹立の段階ではございませんけれども、やはり何かこれであれば西和賀というようなものをしっかりつくっていくことが大事であろうかなというふうに思っております。例えば砂ゆっこにしましても、かなり遠くでもないような施設

ということで、注目度としては高いものが潜在的にも、また来ていただいている人の反応を見てもあります。例えばその思い切ったてこ入れできないかとか、そういうような形で、一方では広範囲な施設整備を計画に従ってしっかりやっていくということと併せて、そういう人を呼び込むような部分、大胆にやっていくという部分も必要であろうかなというふうに思っております。そういう点では、最近ご承知のように民間の動きとして湯本温泉での事業とかいろいろ取り組まれているところもありますので、そういうようなところともより情報を得ながら、そういう展開を図っていきたいというふうに考えているところでございます。

また、深澤晟雄資料館につきましては観光の面と、それから自分、これまでの地域で大事にしてきた部分の、そういう資料の記念的な部分もありますので、そこはそういう両面で考えていかなければならない点もあると思っておりますし、あとやはり運営面でいろいろなかなか難儀されている点もあると思っておりますので、町としてもできるところということで、ふるさと納税の活用をしていただいて、御覧いただければなっていると思っておりますけれども、深澤晟雄資料館を選択して寄附できるというようなシステムの取組ということもさせていただいておりますので、そういう支援についてはできることをいろいろ相談してやらせていただきたいなというふうに考えているところでございますので、よろしく願いいたします。

委員長 刈田敏君。

11番 いずれやっぱり外貨を稼いでいくというのが一番大切なことなので、できるところから進めてもらいたいと思います。

あと1点、事業を進める上でちょっと分からないというか、町民が不安になっているところがあると思うので質問しますけれども、地域計画という名前の中で、これは55ページの地域計画というのはいわゆる農地利用の地域計画であ

って、13ページが一番下の地域計画の策定ということで、これは地域づくり推進事業ということで、非常に中身的に分かりづらいというか、説明すればいいと思うのですけれども、各地域によっては混同していることもあるのではないかとと思うのですけれども、その辺はどのようにお考えでしょうか。

委員長 ふるさと振興課長。

企画課長兼ふるさと振興課長 地域計画という名称につきましては、以前に何かの折にある議員さんからご指摘いただいた経緯もございます。農業関係の地域計画、それからふるさと振興課で所管している地域計画ということで、混同されるので、呼び方、何か工夫したほうがいいのかというご指摘をいただいております。その際も検討する旨答弁しておりましたので、今改めて委員からもご指摘あったとおりでございますので、引き続き鋭意検討に努めてまいりたいと思っております。

委員長 農業振興課長。

農業振興課長兼林業振興課長 お答えします。

国の名称が地域計画ということで、私自身もこれは大変分かりにくいということで、地域での説明をする際には事細かにこの内容を振り回すだけではなくて、実際に農地の利用のあり方を、この話をしていくのだよという話を何度もしております。最近地域計画ではなくて、地域農業経営基盤強化促進計画、略して地域計画なんていうふうに言ったりもすることがあるので、すけれども、それでも大分分かりにくいのはあるのですけれども、単純に言葉を振り回すだけではなくて、その持っている意味というものをできるだけ伝えるようには努めていきます。ただ、国では簡単に地域計画と言ってしまっているので、これ自体を変えるというのは難しいのですけれども、いずれ座談会などのときには分かりやすく中身の説明に努めているということでございますので、よろしく申し上げます。

以上でございます。

委員長 刈田敏君。

11番 農業振興課長、それから企画のほうでは分かっていると思うのですけれども、この地域計画というのは何ですかと言われたときに、地区に行って説明できますか。何をやるのだ。そして、そこが混同していない、そこを課長たちが分かっていたらいいです。だから、そこら辺を確認したいのですけれども、農業での地域計画というのはいよいよ地図を作るためにやって、1筆1筆もらっていくのだと。ふるさと振興課のほうでは、きちっと町の地域、地区のこれからの計画をつくりながら、何とか人口減少に耐える行政区を運営していくのだと、そういうことですので、その辺分かっていたらいいのですけれども、実際難しいです、私も。だから、それをどうやってやっていくかというのがあるので、その辺を、単に名前一緒でもいいと思うのですけれども、中身を充実していかなければいけないのではないのですかということでもあります。

委員長 ふるさと振興課長。

企画課長兼ふるさと振興課長 まずは、ふるさと振興課から答弁申し上げますけれども、ふるさと振興課で担当しています、いわゆる地域計画、これは言い方を換えれば、ふるさと振興課の場合は地域づくり計画と言ってもいいかと思いません。その計画をつくることによって、どういうことを目指しているのかということでございます。

この地域計画につきましては、地域の人たちに自分たちの地域がどうあればいいか何度か話し合っていて、そこで出た意見などをまとめる、こういう決まった定型のやり方、地域計画のつくり方ということは特にありません。なので、必要以上に難しく考えていただかなくてもいいのかと思っておりますけれども、まずは地域の方々は自分たちの地域の目的、現状、課題を認識して、そこを話し合って、数年後この地域がどういうふうになればいいかということを経験の中でよく話し合ってくださいと。こ

ういう地域になればいい、こういう地域をつくってこうという目標をつくっていただきたいということでございます。簡単なことからでいいと思いますけれども、例えば集会所での集まりを今よりも何回か増やすとか、あるいは独り暮らしの人と話をする機会をつくるですか、あとはお祭りの案内を地域の出身者にも出すとか、災害で避難するときの手順をつくるとか、何でもいいと思いますけれども、出された意見からみんなでやろうということになったものを目標とすればいいのではないかというふうに考えております。

委員長 農業振興課長。

農業振興課長兼林業振興課長 それでは、農業振興課のほうで所管している地域計画につきまして内容の説明をしたいというふうに思います。

これなのですけれども、予算説明書の55ページの下段のほうにも書いているのですけれども、これは国の農業経営基盤強化促進法という法律があります。これは令和4年度に改正をされたということなのですけれども、これまであった人・農地プラン、これを法定化するという中身です。つまり市町村全てに義務づけますよということなのですけれども、なので法定化された下での取組であるということがまず前提にあります。

何をするかというお話になるわけなのですけれども、地域での話合いということがまず大事です。その中で、将来の農地利用のあり方、どうするかということ農地1筆ごとに定める、そして先ほど委員ご指摘になりましたけれども、それを図面に落として見える化するのですよというのがまず大きな部分です。これがいわゆる目標地図と呼ばれる部分なのですけれども、それを定めます。さらに、話合いをしながらということなのですけれども、将来にわたって守っていくべき農地、それから守ることができない農地を明らかにする。つまり全ての農地を農家が減っていく中で守ることは現実には難しい。

であれば、どの部分を守るのですか、守らないのですか、これをはっきりさせていきましようということが目的であります。その上で守っていく農地に関しては、区画整理など維持管理していくための必要な対策、あるいは可能な限り管理主体、1筆ごとに誰がやるかということ具体的に決めていくというのが目的であるということでございます。

一方でなののですけれども、守ることが難しいという部分に関しては、完全に農地としての維持を諦めるのかどうか、あるいは環境保全、それから鳥獣害の被害等もありますけれども、そういった観点から中山間地域等直接支払事業、多面的機能支払交付金事業等々を活用しながら維持管理を図る。農地として維持することが困難な土地については、地域での話合いを基に放牧、あるいは鳥獣緩衝帯、林地化、そういった方策などを検討していくというのが内容になっているということでございます。

したがって、今までのようにどちらかという大きな農家に農地をとにかく集めて管理をするということではなくて、その部分、実は転換になっていまして、中小の農家、兼業農家、これを含めた農業を担う者に対して農地を集めて管理をしていこうという考え方になっておりまして、それに基づいてさらになのですけれども、予算説明書の55ページの下にもありますけれども、農地バンクがあります。いわゆる農地中間管理機構というものがあるのですけれども、これまでは中心的経営体に対して農地を集めていくという考え方一辺倒だったのですけれども、地域計画で定めた農業者に対して農地バンクを使って農地を集めるという考え方に転換しているわけです。

です。で、ちょっといろいろとお話を申し上げましたけれども、まとめるとということですが、まず……

委員長 課長、簡潔に。すみません。

農業振興課長兼林業振興課長 失礼しました。す

みません。まとめるとですけれども、まず地域で守っていくところと守っていけないところをはっきりさせて、そのあり方を決めると。それに基づいて農地バンクを活用して、農業を担う者に対して農地集積を図っていくのですよと、こういったことで進めるのがこの地域計画の中身でございます。長くなりまして、失礼しました。

委員長 中村ひとみ君。

4番 私からも地域おこし協力隊招聘事業についての質問です。

12ページですとか16ページになります。今年も4,500万ほどの予算が組み込まれていますけれども、地域おこし協力隊の隊員の獲得、非常に苦労されていると。実際に獲得できませんでしたというふうな結果がよく見られます。はっきり言いますと、やはり年齢制限というのを撤廃したほうがいいのではないかと私は思っております。人生100年です、今。一昔前、一昔前というどれくらい遡るのだということになりますけれども、確実に皆さん若くなってきていまして、シニア層の方もお元気で頑張られていますので、検索しますと年齢制限されていない項目、募集要項もありますが、そういったところをもう少し柔軟にして、実際は面接をして、あとは経歴ですとか、やはり経験値というのはすごく大事になってくると思います。先ほど唐仁原委員からも出ましたけれども、お試し期間と、トライの期間ですよ、そういったものも持たればやっていけるのか、できないのかということもまたお話し合いをして進めていくことも可能になるかと思えます。ですので、そういったところ可能かどうか、ちょっとお伺いしたいと思います。

委員長 ふるさと振興課長。

企画課長兼ふるさと振興課長 お答えいたします。

地域おこし協力隊員の募集に当たっての年齢制限の考え方についてでありますけれども、今日現在、本町で6分野9コースで延べ17人の募

集を行っているところでありますが、このうち応募に当たり年齢制限を設けているコースは9コース中7コースございます。残りの2つのコースについては、年齢不問ということにしております。

年齢制限については、募集を行っているそれぞれの担当課において活動内容に照らし合わせて、より適切、適当な年齢の方に活動を担っていただきたいという狙いから、これを設けているものと承知をしているところでございます。ただ、全国的な状況をざっと見ますと、年齢制限を設けていないところが多いという印象です。し、本町の場合は委員ご指摘のとおり、応募者が極めて少ないという実態もでございます。加えて地方公務員法の平等の取扱いの原則ということもありますので、今後の募集においては各担当課とも十分に協議を行いながら、年齢制限については原則として撤廃する方向で調整を図っていきたいと考えているところであります。

なお、その際、当然のことですけれども、応募があれば即採用ということではありませんので、委員もおっしゃるとおり、選考の過程においてあくまでもその活動をこなしていくだけの能力や資質が備わっているかどうかという視点で採用の可否を判断するものでありますので、結果的に高齢者の方が採用に至るというケースも、これは当然否定されるものではないというふうに考えているところでございます。

委員長 唐仁原俊博君。

6番 学務課の抜粋予算書の12ページです。空き校舎の管理費が計上されていまして、それについて先日質問しました。廃校になった校舎を、まだ残っているものを今後解体していく可能性もあるというか、解体も考えられているということでした。私のほうから述べたのが、学校の敷地を活用することを現段階から考えていったほうがいいのではないかという話をさせていただきました。例えば企業の誘致とかということであれば観光商工課が入ってくるだろうし、

何らかの地域活性化のために使うというのであれば企画が入ってくるだろうし、あるいは自治組織、地域の住民を巻き込んでということになれば総務課が入ってくるかと思うのですが、主管課を替えることを検討するというよりも、むしろプロジェクトチームのような形で検討を進めていかれたほうがいいのではないかなというふうに思っています。ご認識いかがでしょうか。

委員長 学務課長。

学務課長 空き校舎の活用の部分、跡地利用のところをお答えしたいと思います。

この間の答弁でもさせていただいたところでしたけれども、委員ご指摘のとおり、例えば解体したということになった後の活用というのは重要になってくると思います。この分野に関しては、ご指摘のとおり、学務課分野だけの話にはなっていないと思うので、当然解体に当たっての部分、将来的な部分も含めて横断的な形で内部で協議していく形を取りたいと考えているところです。

以上です。

委員長 唐仁原俊博君。

6番 ほかの項目とかでも私時折述べているのですが、情報の公開、計画が決まった段階で、がちり固まった状態で報告という形で情報出されたときに、やっぱりもっと早く知らせてくれればよかったのということが町の中でよくあることだと思います。かつ、ここを使えとしたり、こういうことがしたいなと思っている人がいたとしても、そういうのを出すような機会というのはなかなかないと思いますので、できるだけ早い段階でというか、現段階で何かしたいことがあるかどうかというふうな、ちょっと曖昧な聞き方になるかもしれませんが、そういう意見の聴取、それを地域住民なのか、町民なのか、あるいは近隣の企業とかも含めてもいいのかなと思いますけれども、そういうことをやる計画というのは今のところは

ないですか。

委員長 学務課長。

学務課長 現時点で、こうするという形のものを持ち合わせておりません。ただ、ご指摘のとおり、そういった部分は進めていかなければならないことですので、今後検討してまいりたいと思います。

委員長 柳沢安雄君。

10番 私のほうから1点だけお聞かせいただきたいと思いますが、予算説明書の55ページでございますけれども、地域おこし協力隊招聘事業ということで、本年度は935万4,000円、前年度は1,198万5,000円ということで掲載されておりますけれども、額がちょっと減ってきているわけでございますけれども、その辺の中身をお知らせいただきたいと思いますが、また事業の目的ということで、高齢化及び後継者不足により減少する担い手対策として、地域おこし協力隊制度を活用するもの。地域の農業経営体における研修等を通じまして西和賀町の農業に理解を深めながら、協力隊が策定した農業経営プランをサポートし、3年後の自立就農を目指すとして書かれておりますけれども、これはまず定住人口も見据えた事業ではないのかなと思いますけれども、果たして今まで、いろんなことに取り組んできたと思いますけれども、数年の間にどのぐらいの方が定住されたのか、その辺をお知らせいただきたいと思います。

委員長 農業振興課長。

農業振興課長兼林業振興課長 それでは、お答えしたいと思います。

予算額が約260万くらい減ということでございますけれども、内訳ということなのですが、現在農業振興課に勤務している隊員が2人いるのですが、そのうち1人が令和6年の6月で任期がまず終了するという、要は1年間ないという部分ですので、そういったことで予算が若干減っているというふうに捉えていただきたいと思います。それから、あと1人

はまだ任期がありますし、それからもう一人はここにあるとおり林道関係の隊員を募集したいということで、その分を見込んでいるということで予算の構成になっているということをお知らせしたいと思います。

それから、現在農業関係で定住している地域おこし協力隊、把握をしているのは3名ということでこちらは承知をしているということでございます。

以上でございます。

委員長 柳沢安雄君。

10番 ただいまお答えいただきましたけれども、3名という方が定住されているということのお答えでございますけれども、果たしてこの数字が多いか少ないかは捉え方だと思いますけれども、ちょっと少ないように感じますので、もうちょっと、先ほど各課からの協力隊員の募集要項につきましていろいろやって検討されているようでございますけれども、8番委員、6番委員さんが言われたとおり、地域おこし協力隊の方々とのミーティングをしながらとか言っておりましたけれども、私は要望というか、募集要項に当たってはもうちょっと範囲を広げまして、いろんな業種の方々ともお話をさせていただきながら、いろんな方の意見を取り入れていただきながら、もうちょっと広範囲に募集していただければと思いますけれども、その辺はどう考えていますか。

委員長 ふるさと振興課長。

企画課長兼ふるさと振興課長 お答えいたします。

地域おこし協力隊員の募集でございますが、今現在、先ほども別の質問に対して答弁申し上げておりますけれども、令和5年度分の募集として観光分野、産業振興分野、それから令和6年度の募集としては観光分野、林業分野、建設分野、介護分野、農業分野、合わせて延べ17人の募集を行っておるところでございます。

先ほどの農業分野につきましては、募集は1名にとどまっておりますけれども、今申し上げ

げたとおり町全体としては9分野7コースで17人の募集を行っているということでございますが、募集に当たって、例えば民間の事業者等からのご意見も踏まえて募集を行ったほうがいいのではないかとのご指摘であれば、今現在も可能な限り、そのような対応を行っておりますし、今後もそういった対応につきましては継続して取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

委員長 ほかにありませんか。

(なしの声)

委員長 発言がないようですので、お諮りいたします。

これで総括質疑を終了したいと思います、これに異議ありませんか。

(異議なしの声)

委員長 異議なしと認めます。

以上で本予算審査特別委員会に付託されました8会計の令和6年度当初予算の全てについて審査を終了しました。

直ちに表決に入ります。表決は、議案ごとに行います。

議案第27号 令和6年度西和賀町一般会計予算についてを採決します。

本案を原案のとおり認定することに賛成の方は起立をお願いします。

(賛成者起立)

委員長 起立全員であります。

したがって、本案は認定すべきとして議長に報告します。

続いて、議案第28号 令和6年度西和賀町国民健康保険特別会計予算について採決します。

本案を原案のとおり認定することに賛成の方は起立をお願いします。

(賛成者起立)

委員長 起立多数であります。

したがって、本案は認定すべきとして議長に報告します。

続いて、議案第29号 令和6年度西和賀町後

期高齢者医療特別会計予算についてを採決します。

本案を原案のとおり認定することに賛成の方は起立を願います。

(賛成者起立)

委員長 起立全員であります。

したがって、本案は認定すべきとして議長に報告します。

続いて、議案第30号 令和6年度西和賀町介護保険特別会計予算についてを採決します。

本案を原案のとおり認定することに賛成の方は起立を願います。

(賛成者起立)

委員長 起立全員であります。

したがって、本案は認定すべきとして議長に報告します。

続いて、議案第31号 令和6年度西和賀町温泉事業特別会計予算についてを採決します。

本案を原案のとおり認定することに賛成の方は起立を願います。

(賛成者起立)

委員長 起立全員であります。

したがって、本案は認定すべきとして議長に報告します。

続いて、議案第32号 令和6年度町立西和賀さわうち病院事業会計予算についてを採決します。

本案を原案のとおり認定することに賛成の方は起立を願います。

(賛成者起立)

委員長 起立全員であります。

したがって、本案は認定すべきとして議長に報告します。

続いて、議案第33号 令和6年度西和賀町水道事業会計予算についてを採決します。

本案を原案のとおり認定することに賛成の方は起立を願います。

(賛成者起立)

委員長 起立全員であります。

したがって、本案は認定すべきとして議長に報告します。

続いて、議案第34号 令和6年度西和賀町下水道事業会計予算についてを採決します。

本案を原案のとおり認定することに賛成の方は起立を願います。

(賛成者起立)

委員長 起立全員であります。

したがって、本案は認定すべきとして議長に報告します。

以上で本予算審査特別委員会に付託されました令和6年度当初予算全ての議案の表決を終了しました。

それでは、議長に対し本予算特別委員会での結果を報告し、併せて3月15日の本会議において当職より本委員会の審査状況等について報告いたします。

なお、議長に報告する委員会報告書の作成と委員長報告の内容については、当職に一任していただきたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

(異議なしの声)

委員長 異議なしと認め、そのように取り計らいます。

この際、お諮りします。本会議での委員長報告をもって、本予算審査特別委員会を閉じることにはしたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

(異議なしの声)

委員長 異議なしと認め、そのように取り計らいます。

ここで私から一言御礼申し上げます。各会計予算の審査につきましては、限られた時間ではありましたが、委員各位に熱心に審査していただきました。進行につきましても、円滑な運営にご協力をいただきました。委員各位、執行機関の皆様へ改めて御礼を申し上げます。ありがとうございました。

以上をもって予算審査特別委員会を閉会しま

す。大変お疲れさまでした。

午後 3時15分 閉 会